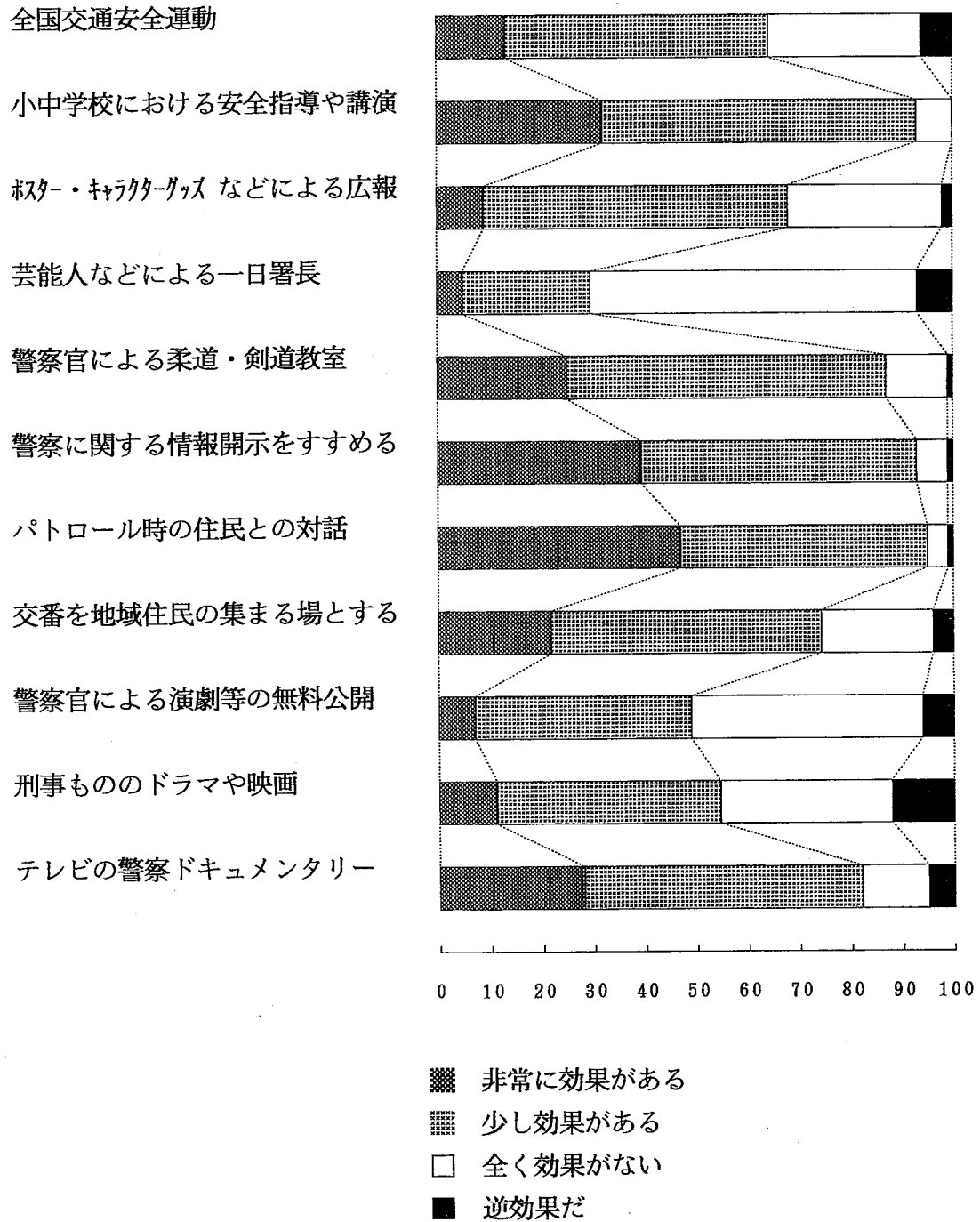


## 5. 警察のイメージアップ

警察は犯罪捜査だけでなく、生活安全に関する多様な具体的活動やPRなどを行ってきた。では、そうした活動の効果について、市民はどのように受け止め、評価しているのだろうか。

具体的な活動として、「全国交通安全運動」「小中学校などにおける安全指導や講演」「ポスター・標語・キャラクターグッズなどによる広報」「芸能人やスポーツ選手らによる一日署長」「警察官による柔道・剣道教室」「警察に関する情報開示をすすめる」「パトロール時の住民との会話」「交番を地域住民の集まる場とする」「警察官による演劇や芸能の地域での無料講演」という9項目をあげた。また、メディアの影響として「刑事もののドラマや映画」「テレビの警察ドキュメンタリー番組」についてもとりあげ、それぞれについて警察のイメージ・アップ効果を評価してもらった。選択肢は「非常に効果がある」から「逆効果だ」まで4段階である（図表5-1参照）。各項目について性・世代別にも比較した（図表5-2参照）。

図表 5—1 警察のイメージアップ



図表5-2 警察のイメージアップ

(%)

	全国交通安全運動				小・中学校での安全教室					ポスター等での広報					一日署長				
	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ			
全体	13	50	29	9	32	61	7	0	9	59	30	2	5	25	64	7			
男性	12	46	33	9	34	59	7	0	10	57	31	2	6	23	63	8			
女性	14	54	24	8	30	63	8	0	9	61	29	1	3	26	66	5			
10代	11	50	32	7	11	68	18	4	11	64	18	7	18	18	46	18			
男女	13	61	17	9	22	74	4	0	9	70	22	0	4	22	70	4			
20代	11	37	38	15	28	60	12	0	11	47	41	1	4	26	59	12			
男女	9	41	38	13	23	63	14	0	7	49	42	1	4	20	68	9			
30代	5	45	38	12	38	55	7	0	8	61	26	5	4	19	66	11			
男女	9	60	23	8	36	56	6	1	8	60	30	3	3	30	63	5			
40代	12	54	28	5	45	55	0	0	12	57	30	1	5	24	65	5			
男女	15	53	24	9	32	65	3	0	10	62	28	0	3	25	71	2			
50代	22	40	33	5	32	64	5	0	6	57	37	0	8	24	67	2			
男女	21	56	20	3	31	61	7	0	11	70	19	0	3	34	59	4			
60代	9	74	13	4	44	52	4	0	9	70	22	0	4	30	65	0			
男女	22	65	9	4	26	65	9	0	9	61	30	0	0	13	78	9			

(%)

	柔・剣道教室				情報開示				刑事ドラマ・映画				警察ドキュメンタリー			
	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ
全体	25	62	12	1	39	53	6	1	11	43	33	12	28	54	13	5
男性	23	63	13	1	44	50	5	1	12	42	34	12	29	52	15	4
女性	27	61	11	1	34	57	8	1	11	45	33	12	28	57	10	6
10代	39	57	4	0	39	50	11	0	32	46	18	4	29	50	18	4
男女	26	52	22	0	26	61	9	4	26	35	35	4	44	39	9	9
20代	24	60	15	1	49	47	2	1	17	37	37	11	35	40	18	7
男女	25	61	13	1	30	61	10	0	13	48	24	16	32	52	14	1
30代	22	66	12	0	38	55	5	1	5	45	39	11	28	57	12	3
男女	19	72	9	0	28	63	9	0	8	49	30	14	24	59	13	4
40代	26	61	12	1	42	53	5	0	11	45	28	16	30	58	10	3
男女	32	59	7	2	43	50	6	2	13	44	32	10	29	53	9	9
50代	14	67	16	3	48	46	5	2	6	40	41	13	27	56	14	3
男女	34	54	11	0	36	59	6	0	9	47	36	9	23	64	6	7
60代	26	61	13	0	52	44	0	4	4	48	26	22	13	52	30	4
男女	26	61	9	4	48	39	9	4	0	26	61	13	17	70	4	9

図表5-2 警察のイメージアップ

(%)

	住民との会話				交番開放				演劇・芸能公演			
	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ	非常に効果がある	少し効果がある	全く効果がない	逆効果だ
全体	47	48	4	1	22	53	22	4	7	42	45	6
男性	47	48	4	1	23	54	20	4	7	41	44	7
女性	46	48	5	1	21	53	23	4	6	43	46	5
10代	29	64	4	4	36	46	11	7	18	32	43	7
男女	65	35	0	0	22	61	13	4	4	48	44	4
20代	47	47	6	0	21	55	20	4	8	40	48	4
男女	37	54	10	0	14	56	27	3	7	42	47	4
30代	54	42	3	1	18	62	16	4	4	37	43	16
男女	50	47	3	0	27	50	19	4	9	47	39	5
40代	47	47	4	1	22	53	22	4	5	46	45	4
男女	47	47	6	0	16	56	25	3	3	35	56	6
50代	44	54	2	0	21	49	27	3	8	48	38	6
男女	47	44	6	3	27	49	21	3	9	39	50	3
60代	52	44	4	0	35	44	22	0	4	39	52	4
男女	39	57	0	4	17	44	30	9	0	61	30	9

「全国交通安全運動」

6割以上が肯定的な評価をしているが、「全く効果がない」(29%)、「逆効果だ」(9%)もある。性別で見ると、男性の方が効果について否定的である。性・年代別にみると、「非常に効果がある」が最も多いのが、男性の50代、女性の50・60代で、共に2割を越えている。逆に、「逆効果だ」が最も多いのは、男性の20代(15%)である。20代と30代の男性では、「全く効果がない」(38%)と合わせた否定的な回答が過半数になっている。また女性の場合も、20代が最も否定的であり、「逆効果だ」(13%)と「全く効果がない」(38%)の合計が過半数にのぼる。若い人にとっては、「全国交通安全運動」が警察のイメージダウンになりかねないということが浮き彫りになっている。

#### 「小中学校などにおける安全指導や講演」

否定的な評価はきわめて少なく、9割以上が肯定的評価をしている。しかも「非常に効果がある」が3割強と、評価が高い。顕著な性差はみられない。ただし、学生には否定的評価が比較的多い(15%)。学生は記憶に残る最近の自分自身の経験からその効果を評定しているものと思われる。

#### 「ポスター・標語・キャラクターグッズなどによる広報」

肯定的評価が多い(7割弱)ものの、ほぼ6割が「少し効果がある」であって、強い支持ではない。「全く効果がない」も3割にのぼっている。性差はみられず、むしろ年代的特徴がみられ、男女ともに20代に否定的評価が多い(4割強)。

「警察への協力しやすさ」についての回答で「やや協力しにくい」「非常に協力しにくい」と答えている人は、「全国交通安全運動」「ポスター・標語・キャラクターグッズなどによる広報」の効果について否定的評価が著しく多い。

#### 「芸能人やスポーツ選手らによる一日署長」

否定的な評価の方が多い。「全く効果がない」が64%、「逆効果だ」が7%で、肯定的評価は約3割にとどまっている。顕著な性差はない。

「警察への協力のしやすさ」について「非常に協力しにくい」としている人の場合、否定的評価が9割を上回っており、「逆効果」と捉えている人が23%もいる点が目立っている。少なくとも、日頃警察に協力しにくいと感じている人がこの行事で協力的になるという効果はのぞめないことがわかる。

#### 「警察官による柔道・剣道教室」

肯定的評価が多い。「非常に効果がある」（25%）、「少し効果がある」（62%）を合わせると9割近い。目立った性差はなく、否定的評価は男女共に1割強程度である。「警察への協力しやすさ」についての回答で「やや協力しにくい」「非常に協力しにくい」と答えている人も、この点に関してその効果を否定する人は少ない。

#### 「警察に関する情報開示をすすめる」

肯定的評価が多く、とくに「非常に効果がある」がほぼ4割と多くなっていて、「少し効果がある」（53%）と合わせると92%にのぼる。「非常に効果がある」とより高く評価する人の比率が男性の方が女性より10ポイント高く、また職業別でみると「管理職（課長以上）」も他よりもこれを高く評価している。また、「警察への協力しやすさ」についての回答で「非常に協力しにくい」としている人も5割弱が情報開示については「非常に効果がある」と支持している。

#### 「パトロール時の住民との会話」

「非常に効果がある」（47%）、「少し効果がある」（48%）と肯定的な回答が圧倒的多数を占めた。否定的評価は合計で5%にとどまっており、「逆効果」とした人は1パーセントに満たない。性差はみられない。「警察への協力しやすさ」についての回答で「非常に協力しにくい」としている人も5割弱（47%）がパトロール時の会話を「非常に効果がある」と支持している。

パトロール時の住民との会話が不足していることは多くの住民の実感するところになっており、パトロール時の会話が、住民の生活上の不安を解消し警察への信頼感を高める上で非常に効果的であることが高く評価されているといえよう。

「交番を地域住民が集まる場とする」

肯定的回答（「非常に効果がある」22%、「少し効果がある」53%）が多いものの、否定的な人（「全く効果がない」22%、「逆効果だ」4%）もあり、評価が分かれている。「警察への協力しやすさ」についての回答で「協力しにくい」としている人も意見が分かれており、2割の人は交番開放を「非常に効果がある」とみている。

「警察官による演劇や芸能の地域での無料講演」

これについては、否定的評価の方が若干多い。「非常に効果がある」（7%）、「少し効果がある」（42%）、「全く効果がない」（45%）、「逆効果だ」（6%）である。男性の30代で「逆効果だ」が他より10ポイント程度高くなっている。「警察への協力しやすさ」についての回答で「非常に協力しにくい」としている人のうち「逆効果」とする人は、それ以外の人より顕著に多く、2割にのぼっている。

こうしたイベントは、もともと警察に親近感をもつ人がより親しみを増すには意味があっても、そうでない人には効果を上げないばかりではなく、最悪の場合は逆効果となってしまうことを示しているといえよう。

「刑事もののドラマや映画」

全体としては肯定的回答が否定的回答を10ポイント程度上回ったものの、「非常に効果がある」（11%）、「少し効果がある」（43%）、「全く効果がない」（33%）、「逆効果だ」（12%）とかなりばらつきがみられた。性別に基づく回答の分布の偏りは見られない。世代別にみると10代・20代の若い世代で「非常に効果がある」の比率が高いという特徴がみられる。

「警察への協力しやすさ」についての回答で「非常に協力しにくい」としている人の回答も、全体的な回答の分布とほぼ同じである。

テレビドラマでは刑事を主人公にしたもの、警察を舞台にした事件ものなどが毎週必ず放送され、なかには高視聴率を獲得する人気シリーズもある。また、近年では警察を舞台にした人気テレビドラマが映画化され話題を呼んだ（「踊る大捜査線」）。ただし、誇張した表現などさまざまな要素の番組があるため、警察ドラマが必ずしも警察のイメージを良くするとは限らないことを反映した回答といえよう。

#### 「テレビの警察ドキュメンタリー番組」

警察を舞台としたテレビ番組には、ドラマではなく、「24時間密着取材」などと銘打ったものを含め、さまざまなドキュメンタリー番組がある。こうした番組については、ドラマよりも警察のイメージアップに効果があるとみなされているという回答結果となった。

肯定的な評価が8割を超え（「非常に効果がある」28%、「少し効果がある」54%）、否定的評価は少ない（「全く効果がない」13%、「逆効果だ」5%）。男女ともに10・20代という若い世代に「非常に効果がある」という評価が多く、こうした番組がもともと若い世代をターゲットにしていることを窺わせる。

全体の項目を比較したのが図表5-1の帯グラフである。

警察のイメージ・アップに「非常に効果がある」とされたものを支持率が高い順に並べると次のようになる。イベント的な要素の多いものより、日常活動が支持されているといえよう。

「パトロール時の住民との会話」	47%
「警察に関する情報開示をすすめる」	39%
「小中学校などにおける安全指導や講演」	32%
「テレビの警察ドキュメンタリー番組」	28%



「警察官による柔道・剣道教室」	25%
「交番を地域住民の集まる場とする」	22%
「全国交通安全運動」	13%
「刑事もののドラマや映画」	11%
「ポスター・標語・キャラクターグッズなどによる広報」	9%
「警察官による演劇や芸能の地域での無料講演」	7%
「芸能人やスポーツ選手らによる一日署長」	5%

## 6. 警察の仕事への評価と今後の期待

現在の警察の仕事が市民にどのように評価されているのか、VIPの警備、テロ集団への警戒、交通取り締まり、地域警らといった具体的な仕事について訊ねた。

### (1) 警備について

#### VIP警備（図表6-1-1）

「国賓などのVIPのために行っている警察の警備」、「首相等の政府高官のために行っている警察の警備」のそれぞれについて、警備の程度の適切さについて訊ね、「過剰だと思う」「少々過剰だと思う」「適当だと思う」「少々手薄かなと思う」「手薄だと思う」の5段階で回答を求めた。

VIPについては、現在の警備を「適当」とする者が約3分の1、「過剰」が2割弱、「少々過剰」が4割強である。「少々手薄」と「手薄」は合計しても7%で、1割を下回